



なるほどアイヌ文化トーク ソニコ de ソニコ

アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた
本田優子(札幌大学教授)と
村木美幸(アイヌ民族博物館専務理事)が、
その魅力をソニコ(=お便り)形式で語り合います。



イラスト/安田千夏

アシリパノミ(新年の祈り)やイヨマ
ンテ(熊の霊送り)など大きなカムイノ
ミ(神への祈り)には、シンヌラッパやイ
チャルパイアしなどと呼ばれる先祖供養が付随
しておこなわれるよね。

シンヌラッパは女性が中心となっておこなう
地域も多いけど、アイヌ民族博物館では儀式に
参加した皆が自身の先祖に対して祈るほか、博
物館の活動にご尽力をいただいた古老にも祈る
こととしているの。イナウやお酒を使って祈ると
いうことではカムイノミと同じですが、例えば
白老では屋外のヌサでカムイノミをするときは
南側を通り、シンヌラッパのときは北側を通る。
トウキ(酒杯)にお酒を注ぐときに、カムイノミで
は二〜三回に分けて注ぐのですが、シンヌラッパ
では一回で注ぐなどの違いがあるの。

ちなみに、私の家は日蓮宗で仏壇に手をあわ
せ、墓参りもしますが、墓参りにはトウキとイク
パスイ(捧酒箸)でお酒をあげ、シト(団子)など
の供物を砕いてチャラバ撒く)するほか、大晦日
には家の庭の一角でお酒やタバコ、正月用に作った
餅や料理をチャラバするの。以前、母に「何で(チ
ャラバ)するの?」と聞いたところ「千代吉爺(じい)
がやっていたことだから。先祖や神さん皆で分けて下さ
い、って言った。」とのこと。村木家の先祖供養
は仏式とアイヌ式の折衷ということですかね。



実は、私が初めてシンヌラッパに参加させてい
ただいたのは、白老のアイヌ民族博物館でのこ
と。その時の驚きは、今でも忘れられませぬね。
シンヌラッパ用の祭壇の前には、お供物が山のよ
うに準備され、参加者が銘々、トノト(酒)と好
きなお供物を手に取って、祭壇に捧げるの。調
理したごちそうやサツチエブ(干し鮭)、お菓子、
果物など選り取り見取り。その時、お供物はわ
ざと折ったり砕いたりするの。どうしてかっ
て? アイヌの世界観では、形あるものは靈魂の
世界である先祖の国に行けないの。壊すこと
で、「エアラマツ(食べ物の魂)」だけがこの世の
食べ物から離れ、先祖の国に行けるんですって。
この時、お供えするだけじゃなくて自分もちゃ
んと食べることが大切、と教えられました。

もう一つ、とっても困ったのは、お供物を届け
たいご先祖の名前をちゃんと口に出して言わ
なければならなかったこと。「ご先祖の皆様へ」
程度では届かないですって。多分、宛名が書か
れていない宅配みたいなものなんでしょう
ね。もちろん私は、それまでもちよっとはアイヌ
文化を勉強してきたので、そのことはわかって
たの。でも、自分ごととして受け止めていたわ
けではないので、その時に言えたの
は、せいぜい祖父祖母の名前まで。その
前のご先祖様、ごめんなさい…。

